



# 文字を伝える！酒米に思いを込めて

つきよね

## 富士川町春米地区の取り組み



### 春米の文字を守る

山梨県の南西部、富士川町にある春米地区つきよねには、一面に美しい棚田の風景が広がっています。そしてそこには、地元有志20人が集った「春米の文字を後世に伝える会」があります。

春米地区の「春」という字は、常用漢字ではありません。巻まきの上半分に「旧」を合わせた漢字で、パソコンなどでも表示できないことがあるため、一般的には「春」という漢字が使われています。そのため、町外の人にはなかなかこの漢字が知られていません。

そこで、古くからこの地区で使われている「春」の文字を残し守っていくと、平成24年に春米の文字を後世に伝える会つきよねが結成されました。

### 酒米に思いを込めて

春米の文字を守るために、「伝える会」が中心となって、地区内の田んぼで栽培した酒米「玉栄」を用いた日本酒を造りました。醸造は町内の醸造店に委託し、ラベルには「春米」の文字を入れました。そしてそれを販売することで、広く地名の認識を高める取り組みをしています。

また、ラベル制作を依頼している東京の会社の社員と酒米作りや試飲会を行い、都市農村の交流を図っています。

### 新たな取り組み

春米地区では新たな取り組みとして、平成30年度に県と協力して、外国の方を招いた酒米の田植え体験を企画しました。

また、こうした活動に加えて、多くの人に春米の文字を知ってもらおうと地区のお祭りで使われる「たるみこし」を手作りしました。台座には「春米」の文字などが入った酒樽を据えて町内外の若い世代にも知ってもらいたいと日々活動をしています。



飲み口はやわらかく、スッキリとした味わいです

昔から地区で使われていた文字はどっち？

○ ×  
春 春





外国の方(アメリカ・中国・台湾)を招いた  
田植え体験



手作りみこし: 台座に「春米」の文字などが入った酒樽を据え紅白の縄で結いつけ 高さ約1.5m幅4mの大きさのみこしを地元有志で手作りしました

### ～大久保さんにインタビュー～

①文字を伝える活動を続けてきて実感はありますか？

活動を始めたばかりの頃よりも、多くの人に認識してもらったという達成感はあるけれど、まだまだ知られてないなと感じるときもあります。

②活動をする中で困っていることはありますか？

5年後・10年後に、この地区の農地を守っていく後継者がいるだろうか心配しています。今現在は退職した人を積極的に勧誘して、酒米づくりをきっかけに仲間づくりができています。

③最近、変化があったことはありますか？

県の土地改良事業で上と下の集落をつなぐ農道ができたことで、行き来が楽になりました。また、今までトラクターが入れなかった田んぼにも入れるようになり使いやすくなりました。



「春米の文字を後世に伝える会」  
大久保俊彦会長

### 春米で取れた酒米100%から造った日本酒を販売している萬屋醸造店



〒400-0501  
山梨県南巨摩郡富士川町青柳町1202-1  
TEL 0556-22-2103  
営業時間 8:00～17:00(土日定休日)



春米の文字が入った日本酒で、原酒ではなく天然水で薄めたものです。720mlが1380円(税込) 1.8Lが2852円(税込)で販売されています